

シテ微ク狹シ、白花暮ヨリ開キ朝ハ凋ム、コレハ正開シテ小百合ノ如シ集解ニ亦有紫花者ト云、コレハ葉細長クシテ短キ箸葉^{チキサ}ノ如シ、一根數葉叢生ス、秋花ヲ開ク、莖高サ一尺許、花小ニシテ淡紫、色又正開セズ、コレヲ紫鶴群芳^譜ト云、一名紫萼、汝南^{圓史通志}紫簪^{八閩}和名ギボウシ京サギサウ筑前アマ大越後サジギボウ^{和州}ツチレンゲ^{羽州}ワスレグサ^{防州}イワナ^{勢州}勢州ノ土人葉ヲ取煮テ食テ、酸味アリ、又一種葉ニ黃色ノ縦條アルモノアリ、キンギボウシト云、白色ノ縦條アルヲギンギボウシト云、總ジテスヂギボウシト呼ブ、秋ニ至テ花ヲ開ク、淡紫色、莖ニ葉互生ス、コレヲ間道玉簪^{汝南}間道花^譜芳^群紫玉簪^{秘傳}ト云、又一種至テ細葉ニシテ紫花ナルモノアリ、和名キンラン^{漢名}小紫^{譜芳}白花ナル者アリ、和名ギンラン、漢名小白^{同上}又一種ブンチヤウト呼ブアリ、其葉白鶴ヨリ狹タ、紫鶴ヨリ大ニシテ尖リ銀邊^{フクリ}アリ、

〔廣益地錦抄六〕紫萼^{ホウ}宿根より春生、濕地に生る所々溝のかたはらに多く生ス、葉はぎぼしのちいさき形車前葉^{シヤゼンナラ}に似り、六七月はななく、花形もぎぼうしのごとく、鷺の飛ぶかたちなり、花の色、るり、紫、白色の三種有、花壇に植て、あひすべし、草花の名うるいさうといふ、民俗葉をとり蒸て食、凶年に飢を救ふ、

〔地錦抄附錄二〕銀蔥花^{キンセンカ}草はつねのぎぼうしなり葉のまはり、雪白のへりをとり、筋のごとく見事に銀薄をおすがごとし、ながめすぐれてよし、花はつねのぎぼうしのごとくなり、一寸蔥花、花形葉共につねのぎぼうしのごとくにて、生立ちいさく葉あつく玄まりてみじかく、莖むらさき色花はうす紫、小りん、小鉢に植てながめとなる、八月花さく、

〔剪花翁傳三四月開花〕唐擬寶珠艸^{たうぎ}花白に淡紅を帶たり、開花四月下旬、方三分陰、地土えらばず、肥淡小便、冬中に二三度、又芽出し前に四五度そぐべし、分株春彼岸前、又秋九月より十月より、葉はいたつて丸々裏に粉を吹也、已下の擬寶珠艸育方並び同じ、